

神のことばの主日 (マタイ 4:12-23)

神のことばは深く掘られた汲み尽くせない井戸



フランシスコ教皇様が 2019 年 9 月 30 日に公布した自発教令に沿って、今週年間第 3 主日は「神のことばの主日」と呼ばれています。神のことばをより大切に心にとどめる、そのつもりで今週のミサを祝ってまいりましょう。

今週の朗読からイエスのことばを大切に心にとどめるとするなら、「悔い改めよ。天の国は近づいた」(4・17)と「わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしよう」(4・19)の二箇所でしょう。始めのことばは、「人をイエスに向かわせることば」と考えました。あのことばは、「イエスが人の心の中に入っていくことば」と考えました。私たちには、人をイエスに向かわせることばと、イエスが人の心の中に入ってこることば、両方が必要なのだと思います。

人を、イエスに向かわせることばは、今年の黙想会でいくらか触れることができると思いますので、そちらに委ねます。今回は、「イエスが人の心の中に入ってこることば」について考えてみましょう。

「わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしよう」なぜこのイエスのことばは、ガリラヤの漁師たちに響いたのでしょうか。なぜ漁師たちの心の中に入ってこることができたのでしょうか。

単純に、「わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしよう」このことばが「すべての漁師の心に響くことができる」とするなら、ガリラヤの漁師たちはわんさかイエスの弟子になったことでしょう。皆さんも薄々気付いているとは思いますが、そういうわけではありません。漁師たちのうち、特定の漁師たちの心に、イエスのことばが響き、深く心の中に入ってきたのです。

イエスのことばが響いた漁師たちと、そうでない漁師たちの違いは何だったのでしょうか。私はこう考えます。毎日繰り返される魚をとる仕事。どれだけとっても、何か満たされないものがあつた。そういう漁師にとって、イエスのことば「わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしよう」は特別な響きがあつたのではないのでしょうか。

私たち長崎教区の長であられるペトロ中村倫明大司教様には、あと二人同級生の長崎教区司祭がおられます。その中でも叙階の日も同じなのが牧山強美神父様です。小神学生時代に一緒に過ごしましたが、長崎の神学校で牧山先輩から言われた次のことばは、今でも深く心に刻まれています。「井戸は、深く掘らなければならない。浅い井戸は、すぐに涸れてしまう。」もう少し説明を加えましょう。

神学生はそれぞれが個性的な人たちです。ですから何かしら、自分が興味を持っている分野があり、たいていの場合、興味ある分野を掘り下げています。ただ、「どれくらい掘り下げているか」は神学生のやる気によって違ってきます。

たいして掘り下げていない人もいますでしょう。そうするとその人は

全能の神よ、聖なる福音をふさわしく告げるため、わたしの心と口を清めてください。

のちに司祭となったとき、自分の興味ある分野であってもワンパターンな話しかできないのです。ミサに集まる人たちはどこかで、喉が渴いている人たちです。「渴いている人はだれでも、わたしのところに来て飲みなさい。」（ヨハネ 7・37）とイエスに招かれている人たちです。集まった人たちが、変わり映えしない説教を何度も聞かされたら、あるいは何年も聞かされたら、その人たちは渴きを潤せない場所に見切りを付け、もはや来なくなるでしょう。

ある人は、興味ある分野を神学生の時から深く掘り下げています。この人がのちに神父様になると、その神父様が掘り下げた井戸から、たくさんの方が水を飲み、潤されるのです。仮に水がなくなっても、深く掘られた井戸にはあちこちから水が染み出て、また多くの人の渴きを潤すことができます。こんな井戸を、一人一人持つておくべきだ。牧山先輩はそんな思いで、井戸のことを語ってくれたのだと思います。

牧山先輩の井戸の話は、なぜ中田神父に響いたのでしょうか。それは中田神父自身が、説教を準備する中で何度も井戸が涸れて、倒れそうになったことがあるからです。しかし中田神父はそれでも、井戸を掘り下げようともがきました。そのおかげで、もうダメだと思ってもどこからか水が湧いて、私の井戸に水が溜まり、それが誰かの渴きを癒やすことになったのです。

私にとって掘り下げていく井戸、それは日曜日の福音朗読でした。神学生の時、出会った神父様の説教をよく聞いて水を汲みました。司祭になってからは、参考書も頼りにしてきましたが、何度も聖書の箇所を読み返しました。それだけ努力しても、「もうこれ以上何も出てこない」と思うこともありましたが、諦めずに固い地層に「のみ」を打ち続け、何とか水脈を当ててここまで来たわけです。

「わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしよう」このイエスのことばは今も私を惹きつけています。実はイエスのことば一つ一つが、汲み尽くすことのできない井戸です。それは信徒の皆さんにとっても、どこかの時点で分かることです。神のことばは、渴いている人をいつも招いて潤してください。中田神父も引き続き、神のことばが汲み尽くせない宝であることを、伝え続けていきたいと思っています。

年間第4主日(マタイ 5:1-12a)